



統計から見る特許

今回は、韓国特許庁より発表された統計資料「2021年統計からみる特許動向」を基に、韓国における特許出願分野の動向についてお伝えします。どの技術分野にどれだけ多くの特許出願がなされたかを把握することは、最近の技術開発に対する投資と関心の動向を知る上で非常に重要です。

2020年の統計によれば、国内出願された特許は218,718件であり、前年対比3.4%増加したことが分かりました(技術未分類は除く)。出願分野の比率をみると、電気(34.1%)、化学(20.9%)、機械(19.3%)、器具(14.2%)、その他(11.5%)の順になっています。電気分野は2013年に36.2%を記録してから徐々に減少していますが、依然として30%以上の占有率を示しています。また、法人の出願人の場合は、電気分野の出願比率が88.9%と最も高く、個人の出願人の場合は、機械分野の出願比率が24.7%と最も高いことが分かりました。

分野別には、電気機械／エネルギー分野は、2010年代以降、出願及び登録件数が緩やかに維持し、外国人による出願及び登録の比重は、それぞれ18.9%、21.8%を占めています。技術を細かく見てみると、ガスを注入する放電管、二次電池などの基本的な電気素子の比率が最も大きな比重を占めており(55.6%)、次に、蓄電池充電装置、給電装置をはじめとした電力発電・変換・配電技術が続きます(33.5%)。

コンピューター技術分野は、出願と登録件数が2010年代以降、緩やかに増加して推移しています。出願と登録件数は、2020年基準で

それぞれ8%、15.1%の比率を占め、外国人の比重は、出願が23.8%、登録が20.9%となっています。技術を細かく見てみると、手書きの文字を認識する方法などのデジタルデータ処理技術が52.8%と最も高い比重を占めています。次に、画像イメージ復元及び画質向上技術をはじめとしたイメージデータ処理技術が13.7%と後に続きます。

医療技術分野は、出願と登録件数が2010年代以降で最も目立つ増加を見せて推移しています。出願と登録件数は、2020年基準でそれぞれ17.4%、24.2%の比率を占め、外国人の比重は、徐々に減少する傾向にあり、2020年の出願と登録ではそれぞれ17.8%、18.9%となっています。技術を細かく見てみると、放射線診断用機器、全身の動きを測定する装置など、診断/手術技術が31.1%と最も高い比重を占めました。そして、紫外線照射装置をはじめとした殺菌技術が12.6%と後に続きます。

土木工学技術分野は、出願と登録件数が2010年代以降、緩やかに増加して推移しています。出願と登録件数は、2020年基準でそれぞれ5.9%、15.5%の比率を占め、外国人の比重は、出願が4.7%、登録が4.9%となっています。技術を細かく見てみると、耐震設計、補強部材、遮音材などの建築物建設技術が35.4%と最も高い比重を占めています。そして、擁壁、保護壁、地下坑道をはじめとした土砂移送、基礎技術18.2%と後に続きます。

IP5 (Five IP Offices) の出願・登録現況はどうでしょう。IP5とは、先進5つの特許



庁を意味し、加盟国として日本（JPO）、米国（USPTO）、欧州（EPO）、中国（CNIPA）、韓国（KIPO）が含まれます。IP5体制は2007年に発足し、知的財産権制度の利用者と大衆に対して改善されたサービスを提供するための特許審査、統計報告書の発行（IP5 Statistics Report）など様々な分野で協力が行われています。2020年にIP5特許庁を通じて出願された特許は、2,789,815件であり、これは前年に比べて2.0%増加しました。中国はここ10年で年平均12.3%の成長率を見せ、2011年に米国を上回り、世界で最も多くの出願（526,412件）を果たしました。また、2015年には史上初の百万件を突破しました。一方、米国、欧州、韓国は、ここ10年間でそれぞれ年平均1.9%、2.6%、2.7%の成長傾向を示し、日本の出願件数は、ここ10年で年平均1.9%と持続的な減少傾向を示しています。

登録件数を見ると、IP5の合計は1,329,984件であって、前年に比べて6.3%増加しました。登録動向は出願と同様に中国の成長が目立ちます。中国はここ10年間で年間平均13.3%の成長を見せ、2015年に米国を抜き、事実上、最多の特許登録国家となりました。

データを活用することで、国際的に注目を集める技術分野の動向と研究開発の現況把握を期待することができるでしょう。



筆者紹介



柳鍾宇（ユ ジョンウ）

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は（株）LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は（株）サムスンの特許明細書作成／中間処理／外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。